

第 209 号 内容紹介

1, 日本 AALA 声明「米のイラン攻撃に抗議する」

ガザからベネズエラとキューバに続くイラン軍事攻撃は、石油と鉱物資源の確保のため世界の再植民地化し再編するアメリカ帝国主義の覇権戦略であることを直視すべきだ。

2, M・サントス「戦術的撤退／ベネズエラ革命は今も続く」

マドゥロを引き継いだロドリゲス政権の対米協調は「革命の裏切り」なのか。屈服論の根拠を検証し「肝心なのは革命のために死ぬことではなく、生きながら革命を成し遂げることだ」と力説している。

3. V・プラシャド「米国ブロックの超帝国主義」

トランプ一派は並外れた超帝国主義の軍事力を使用して、グローバル・サウスのすべての国を従属させ、労働者階級や農民の組織、社会主義組織をすべて破壊しようとしている。

4, 大久保賢一「世界をこわす無法者トランプをのさばらせるな」

「奢れる者は久しからず」も歴史の鉄則。嵐が過ぎ去るのは待てばいいということではない。せめて、トランプの行動を非難し、高市早苗の正体を暴露することくらいはしておきたい。

その他の記事は「AALA ニュース編集日記」で参照できます ([aala_news の編集日記 \(livedoor.jp\)](https://aala-news.livedoor.jp/))